第4回親育ち支援地域別連絡会（中部3グループ）

令和6年11月14日（木）
場所　中土佐町役場1階会議室

テーマ

子どもも保護者も保育者も共に育つために　～心にひびく伝え方～

内容

連絡会・交流会の振り返り

【成果】
- 交流会への参加を他園にも呼びかけることで、年々参加者が増え、今年もたくさんの参加があった
- 初めて交流会に参加する人が多く、『親育ち支援』に対する理解を広げることができた
- グループに分かれての協議では、意見を出し合い、共に考え、見方を広げ合うことで、一人では気付けなかったことにも気付くことができた
- テーマの『心にひびく伝え方』について考え合うことができた

【課題】
- 実践シートの活用が広がっているので、研修内容がマンネリ化しないよう交流会の中身を考えていく
- 交流会では、初めて参加する人にもわかるよう、説明を丁寧にする必要がある
- 出た意見をまとめたり、時間配分や課題を一つにまとめることが難しい

言葉や態度だけでなく、
思いや目に見えないもの
でも伝わる、心にひびく

話し合いの中でもっとテーマを振り返る時間があればよかった

若い保育士も増えてきたので、
もっと実践シートを広めて
いきたい

みんなで一つの事例を話し合うことで、より多くの考えや発見があり、自分の心にひびくことがたくさんあった

保護者・保育者の思いには違いがあって当然だから、
実践シートを用いて、子ども・保護者理解を共に
行い、支援の方法を考えたい

中土佐町教育委員会　作成

第4回親育ち支援地域別連絡会（中部3グループ）

令和6年11月14日（木）
場所　中土佐町役場1階会議室

テーマ

子どもも保護者も保育者も共に育つために～心にひびく伝え方～

内容

地域での取り組みの振り返り、年間のまとめ

【成果】
- 市町村の中で各園の親育ち支援担当者の会を定期的に開くことで、つながりができた
- 園内で保護者や職員対象に親育ち支援の研修やワークショップを行うことができた
- 保護者に寄り添う支援を行うことで、母親のほうから話をしてくれるようになった
- 親育ち支援担当者が集まり研修を行ったり、親育ち支援担当者の紹介を市町村で行ったりすることで、親育ち支援についての理解が広まりつつある

【課題】
- 市町村によっては、各園が離れているので親育ち支援担当者同士の交流が難しく、報告などが自園にとどまりがち
- 実践シートの必要性も感じているが、継続した活用が難しい
- 親育ち支援は、担当者だけの役割と思われている意識を変えるのが難しい

今年度は、テーマの『心にひびく伝え方』がどうしたらできるのか、意識して連絡会や交流会に取り組んできた。
『心にひびく伝え方』をするためには、実践シートを活用し、子ども・保護者理解をしっかり行った上で支援方法を考えていくことが大切だと考えた。これは、今年度だけで取り組んで終わるものではなく、継続的に意識し取り組んでいく必要がある。
これからもテーマを意識して、『心にひびく伝え方』ができるよう、それぞれの園、地域全体で考えていくようにしたい。

中土佐町教育委員会　作成